平成 26 年 12 月 20 日

ところ会員各位

ところ会　1月行事案内

平成 27 年度、第 1 回テーマ：深川七福神と深川めぐり
（芭蕉記念館、清澄庭園、富岡八幡、深川不動他）

平成 27 年最初の行事は今年も七福神めぐりを企画し、深川の地を選んでみました。ご利益を願う方はお賽銭を忘れずに。深川不動には四国八十箇所の巡拝所もあるのでたくさん要りますよ。

終了後は秋津駅前のさくら水産にて希望者で簡単な新年会でもやりましょう。

記

■**日　　時**：平成 27 年 1 月 23 日（金）8 時 45 分集合

■**集合場所**：西武線所沢駅中央階段下（特急券売り場前付近）

■**見学場所及び時間**（**スイカかパスモ**を携行下さい、チャージもね）

所沢駅(8:45 集合・出発 8:50)中華街行き⇒新宿三丁目(都営新宿線：先頭車両)⇒森下駅(A7 出口)⇒深川神明宮(寿老人)⇒芭蕉記念館⇒深川芭蕉庵跡⇒深川稲荷神社(布袋尊)⇒清澄公園⇒龍光院(毘沙門天)⇒円珠院(大黒天)⇒心行寺(福禄寿)⇒冬木弁天堂(弁財天)⇒富岡八幡宮(恵比寿神)⇒深川不動堂⇒門前仲町(地下鉄東西線)⇒大手町（地下鉄丸ノ内線）⇒池袋駅(16:00 頃を予定)⇒解散⇒秋津駅(有志で新年会)⇒所沢駅帰着

コース全長約 6km

■**昼食場所**：尾張屋　　江東区清澄 2-7-9　　☎03-3630-1553

小さいけれど感じの良いお蕎麦屋さんだと思います。蕎麦屋さんの普通のメニューがありますが、**親子丼セット　1,140 円**で揃えましょう。親子丼に蕎麦かうどんが付きますが、温かい蕎麦がお薦めです。

鶏肉、うどん、蕎麦が苦手な方はご連絡下さい。

お昼時は混みますので 11：30 に入店目標です。

■**入場料**　芭蕉記念館 150 円、清澄庭園 50 円なので、予め 200 円を徴収します。

■**七福神の起源（歴史）**

ヒンドゥー教の神である大黒を祀ることは最澄が始め。それが徐々に民間に広まり日本の土着信仰の神である恵比寿とセットで信仰されるようになった。平安時代以降、毘沙門天を恵比寿・大黒に加え三神として信仰されることが起こった。室町時代には仏教の布袋、道教の福禄寿・寿老人なども中国から入ってきてそれぞれに知られるようになり、人々は別々に信仰されていた 7 つの福の神を集め、七福神とした。ただし、当初は必ずしもメンバーが一定していなかったが江戸時代にはほぼ現在の顔ぶれに定まった。

■**見学場所簡単ガイド**

＜深川神明宮(寿老人)＞

寿老神は、深川神明宮の境内の寿老神社に安置されています。

深川神明宮は、深川において創立の最も古い神社であります。大阪**摂津の深川八郎右衛門が、この付近に、深川村を開拓し**、その鎮守の宮として、慶長元年（1596）伊勢皇大神宮の御分霊をまつって創建しました。徳川家康が、この村に来て、村名を尋ねたがないので、深川八郎右衛門の姓をとって、深川村と命名せよといわれた由、以来深川村が発展し、深川地区の各町に冠せられ、深川の地名のもとになりました。

寿老神（寿老人）

寿老神は、寿老人とも書き、中国道教の神です。また中国の老子の化身の神ともいわれています。

寿老神は、白髪長寿の老人の姿をして、杖を手にし、杖には人命の長寿を記した巻物を吊し、鹿を伴っています。鹿は、長寿を司る寿老神の神使とされています。寿老神は、人に**「延命長寿」**の福徳を授ける福神として、信仰されてきました。

＜芭蕉記念館＞

深川芭蕉庵跡近くの隅田川の川沿いにあり，松尾芭蕉の直筆，遺品など約 1500 点を収蔵・展示している。また，芭蕉に関する図書室もある。

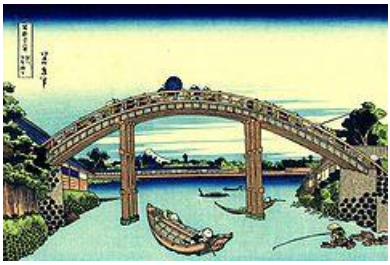
＜入館料　団体 150 円＞

＜芭蕉庵史跡庭園・深川芭蕉庵跡＞

松尾芭蕉が深川に移り住んだのは、延宝８年（1680）芭蕉 37 歳の時です。芭蕉は、延宝８年から元禄７年（1680～1694）まで門人の杉山杉風（さんぷう）の生け簀の番屋を改築して、芭蕉庵として住んでいた。

小名木川に架かる万年橋の北に**芭蕉稲荷神社**（芭蕉庵跡）が祀られている。芭蕉庵は、芭蕉没後に消え去りその場所も長く行方不明になっていた。大正６年(1917)の大津波の時、元々あった稲荷神社付近から芭蕉遺愛のものとみられる石蛙が見つかった。このことからここを芭蕉庵跡と推定し、祠に石蛙を祭り芭蕉稲荷とした。かの有名な「古池の句」はこの芭蕉庵で貞享３年（1685）の春、詠まれた。

＜萬年橋＞



小名木川（おなきがわ）にかかる橋。江戸時代初期には小名木川を航行する船荷を取り締まるため「川船番所」が置かれていた。小名木川は江戸へ荷を運ぶための運河であり、航行を妨げないように橋脚を高くしていたが、萬年橋は特に大きく北斎、広重に取り上げられている。**北斎：富嶽三十六景「深川萬年橋下」**

＜深川稲荷神社(布袋尊)＞

布袋尊のまつられている深川稲荷神社は、寛永７年（1630）の創立。深川地区では、創立の古い神社です。祭神は、宇賀魂命（うかのみたま）、西大稲荷ともいいます。この付近の旧町名は、深川西大工町でしたが、昭和７年に深川清澄町と改称し、その旧名から西大稲荷と称しました。この神社の裏の小名木川は、江戸時代初期から、船の往来がはげしく、この付近一帯に船大工が住み、船の修繕、造船をしていましたので、この町名が生

まれたといわれています。この神社は、無住社にして、町会によって管理運営されています。

布袋尊

唐の末期に実在した**仏教の高僧**といわれています。大きな袋を持ち、これに食べ物や日常品を入れ、杖をたずさえ、大きな団扇を手にし、身体は低いが、腹は太鼓腹、半裸身、粗衣をまとい、常に笑顔、清貧にあまんじ、諸国を遊行し、子供と遊び、酒脱、楽天的な和尚として親しまれてきました。また人の吉凶、時の晴雨を予知したといわれました。中国において、布袋尊を弥勒菩薩の化身として、一般に信仰せられ、画像に描き、彫塑に刻まれ、あるいは置物として、ひろく親しまれるようになり、わが国に伝来し、**「清廉潔白」、「大気度量」**を人々に授ける福神として、信仰されるようになりました。

＜清澄庭園＞

泉水、築山、枯山水を主体にした明治の代表的「**回遊式林泉庭園**」です。**全国の名石を配した**池を巡れば四季折々の表情が楽しめます。

一説には江戸の豪商**・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡**と伝えられています。享保年間（1716～1736）には、下総国関宿の藩主**・久世大和守の下屋敷**となり、庭園の元が形づくられました。後に、**岩崎弥太郎**が、この邸地を含む 3 万坪を取得して「深川親睦園」として一応の竣工をみました。弥太郎の亡きあとも造園工事は進められ、隅田川の水を引いた大泉水を造り、周囲には全国から取り寄せた名石を配して、庭園が完成しました。関東大震災では災害時の避難場所としての役割を果たし、多数の人命を救いました。岩崎家では、庭園の防災機能を重視し、破損の少なかった東側半分（現庭園部分）を公園用地として東京市に寄付し、市ではこれを整備して昭和 7 年に公開しました。

＜入園料　65 歳以上：70 円（20 名以上の団体 50 円）＞

＜深川江戸資料館＞　……時間不足のため今回は割愛します

深川江戸資料館は、江東区立の江戸時代に関する資料等を収集、保存及び展示しています。地下 1 階から地上 2 階・3 層にわたる高い吹き抜け大空間に、約 150 年ほど前の江戸深川の町並みを再現している。各家の中には生活道具類が配置されている。また、人々の 1 日の暮らしを音

響効果(物売りの声や火の用心など)と照明効果によって、1 時間で演出している。　　＜入館料　300 円（20 名以上の団体）＞

＜阿茶局の墓（雲光院）　＞

阿茶局(おちゃのつぼね)は夫の死後、徳川家康に仕え側室となります。茶阿局は聡明であったため家康の信頼が篤く、奥向きのことを任され、強い発言力と政治力を持つようになりました。大坂冬の陣では使者として大阪城に入り和議の交渉を行なっています。秀忠の娘、和子の入内には守役を勤め朝廷から従一位民部卿を賜っています。自ら育てた秀忠の死後は雲光院と号し、ここ雲光院に葬られました。

＜龍光院(毘沙門天）＞

龍光院は、浄土宗雲光院の塔頭寺院で、慶長 16 年（1611）馬喰町に創立、明暦３年（1657）の大火に焼失し、岩井町に移転、天和２年（1682）の大火に焼失し、同年深川の地に移転しました。

龍光院が現在地に移ったとき、鬼門除けとして境内東北角に、三尺ほどの石造の毘沙門天が安置され、昭和 11 年には境内の東南角に一間半四面の毘沙門堂が建立されました。昭和 20 年、戦災のため、堂宇は焼失しましたが、復興し、昭和 50 年、木彫の立派な毘沙門天が安置されました。

毘沙門天

毘沙門天はヒンズー教の財富の神であったインド名のクヴェーラ神が仏教に取り入れられ、仏神となったものです。戦いの神であったが、仏教に取り入れられてから、福徳増進の神としてしだいに民衆に信仰される。日本では毘沙門天（ヴァイシュラヴァナ）と呼ばれる。

経典によると、毘沙門天は四天王（持国天・増長点・広目天・多聞天）の随一として須弥山の中腹に住み、大勢の夜叉や羅刹を率いて北方を守護しています。常に仏の道場に在って多くの法を聞き、あるいはその福徳の名声が遠く十方に聞こえることから**多聞天**と訳されます。その姿は、身に甲冑をつけ、左手に宝塔を捧げ、右手には三叉戟（三つまたの鎗）を持ち、忿怒の形相で邪鬼を踏みつけ毘沙門立ちをしています。

毘沙門天はわが国では仏教守護から転じて、**国土守護の武神**として、とくに武将の間に信仰されるようになりました。

また毘沙門天は護法と施福を兼ねる仏神として、民衆に**勇気や決断力**を与え、**財福を授ける**福神として広く信仰されています。

＜円珠院(大黒天）＞

円珠院は、享保のころ旗本永見甲斐守の娘、お寄の方が起立しました。

享保５年（1720）に描かれた大黒天の掛軸があり、木造の大黒天が安置、境内に石造の破顔大黒天が安置されています。江戸時代から、深川の大黒天として有名でした。

大黒天

大黒天信仰には二つの流れがあります。一つは、大黒天を**大国主命**とする流れ、これは多く神社に祀られています。もう一つは、インド名をマハカーラという**仏神の大黒天**、これは多く寺院に祀られています。

仏教の大黒天はインドのシバ神が、悪神を退治した神話から、仏教に取入れられ、摩訶迦羅天すなわち大黒天となり、夜叉荼吉尼衆（やしゃだきにてん）を降伏（こうぶく）する大日如来の化身となり、忿怒の戦闘神の姿をしていました。ところが大黒天はしだいに招福の神となり、忿怒の相が、笑顔の姿になり、**食物・財福**を司る大黒天となりました。日本古来の大国主命の習合。

＜心行寺(福禄寿）＞

福禄寿の安置してある心行寺は、元和２年（1616）京橋八丁堀寺町に創立された浄土宗の寺で、寛永10年（1633）現在地深川寺町に移った由緒ある名刹である。関東大震災と昭和20年の戦災により二度も焼失したが、現在の本堂は昭和42年に再建された。昭和50年に福禄寿が安置されている六角堂が完成した。

福禄寿

福禄寿は、星宿の神、南十字星の化身ともいわれて、**長寿をつかさどる人望福徳の福神**であります。一説には、道教の道士天南星ともいわれます。

福禄寿は、背たけが低く、頭がきわめて長く、白髪童顔の姿をし、年齢数千年といわれ長寿をつかさ

どる福神、杖を右手に、左に長命の鳥、鶴を従え長命と円満な人格を人々に授ける福神であります。また**福（幸福）と禄（財）と寿（長命）**の三つの福徳を授ける神ともいわれてきました。寿老人と同一神とされることもあます。

＜法乗院 えんま堂 ＞

江戸三えんまの一つに数えられていた「深川えんま」は戦災にて消失。現在の閻魔様は平成元年に建てられた物で、**日本最大の閻魔大王座像**です。全高 3.5m、全幅 4.5m、重量 1.5ｔで寄木造り。所沢の長栄寺の閻魔様は高さ 2.9m で残念ながら大きさでは劣ります。

ここの閻魔様は願い事に応じてお賽銭を入れるとえんま様がお説法をして頂ける**ハイテクシステム**になっているそうです。

＜冬木弁天堂(弁財天)＞

木場の材木豪商、冬木弥平次が宝永２年（1705)、茅場町から深川に屋敷を移転した際、邸内の大きな池のほとりに、竹生島から移した弁財天を安置したのが始めです。そのためいまでもこの町を冬木町といいます。冬木弁天は、明治３年から一般に参詣を開放しました。この弁財天は、等身大の裸形弁天にして、毎年一回衣装の着せ替え行事をおこなってきましたが、関東大震災で焼失しました。現在の弁天堂は、昭和 28 年に再建されたものです。冬木弁天堂は、古義真言宗に属しています。

弁才天（弁財天）

七福神の中の紅一点の弁財天は、インド名をサラスバティという川の名、この川の神が悪声を変じて美声に変える**音楽の神**、**芸術の神**でした。仏教の神となり、**才智弁舌**の神とされます。わが国では、弁才天より弁財天として、**財宝を施す福の神**として信仰されるようになり、**商売繁盛**の富有の福徳を授け、**芸道音楽**の仏神として位置づけられ、池、川、沼、湖などに多く祀られ、蛇が神使とされてきました。また、弁財天は、智慧、延命、安楽を与えるともいわれています。

お姿は、女神、白色の美顔、頭に宝冠、一般には青色の衣を着し、左手には琵琶を抱き、右手でこれを弾いている座像が多いのですが中には八臂、各手にいろいろな器杖を持っています。

正月最初の巳の日を昔から初巳、初弁天として弁財天への参詣者が多く、巳成金という海運のお守りをうけ、これは金持ちになるというならわしであります。弁財天を宇賀神として信仰しているところもあります。

＜富岡八幡宮(恵比寿神)＞

深川七福神の恵比須神がお祀りされている富岡八幡宮（別称深川八幡）は、寛永４年（1627）、当時永代島と呼ばれていた小島に創建されました。周辺の砂州一帯を埋め立て、社地と居住地を開き、今日の八幡宮境内・深川公園地・富岡町・門前仲町を含む、総じて 60,508 坪の社有地を得ました。以来隅田川両岸一帯（深川及び現中央区新川・箱崎地区）の氏子を始め、広く世の崇敬を集めている江戸最大の八幡様で、「深川の八幡様」として親しまれています。

恵比寿神

イザナミ・イザナギの間に生まれた**蛭子尊**であるといわれ、全国のエビス信仰の中心は兵庫県西宮市の西宮神社です。

エビス神は烏帽子をかぶり、狩衣を着て、右手に釣竿を持ち、左手に鯛を抱き、岩の上に座った姿をしておられます。最初は、**航海安全**の神として信仰されてきましたが、のちに**商売繁盛**の神として、ひろく信仰されるようになりました。エビス顔といわれるように、**笑顔愛敬**、**和顔愛語**の福徳を人に授け、かつ**富財の神**として、信仰されてきました。**唯一日本由来の神**です。

「横綱力士碑」

本堂右奥にある「横綱力士碑」。その裏には歴代横綱の名前が刻まれています。**四代横綱谷風梶之助**、**五代横綱小野川喜三郎**の名が見えます。新しい碑の裏には現在の横綱名が並んでいます。若乃花依頼日本人の横綱がいないのは寂しいことです。

「横綱力士碑」手前には「**超五十連勝力士碑**」が建っています。50 連勝以上を達成した横綱の名が刻印されています。

「大関力士碑」

参道入口の所には「大関力士碑」があります。最後に彫ってあるのは琴欧洲関です。現役の力士はまだ横綱になる可能性があるので、引退した時に名前が彫られるようです。

「伊能忠敬像」

伊能忠敬の銅像が境内大鳥居横にあります。伊能忠敬は、50 歳の時に江戸に出て、富岡八幡宮近くの黒江町（現在は門前仲町 1 丁目）に隠宅を構えていました。伊能忠敬は全部で 10 回の測量を行いましたが、遠国に出かけた第 8 回までは、出発の都度必ず、内弟子と従者を率いて富岡八幡宮に参詣して、無事を祈念した後、千住、品川宿などの測量開始地点に向かって歩き出しました。

「日本一の黄金大神輿」

紀伊国屋文左衛門より三基三様の神輿が奉納され、みこし深川と云われて参りましたが大正 12 年の関東大震災で惜しくもその全てを焼失してしまいました。それ以来、御本社神輿の復活は深川っ子の念願でありましたが、平成になり佐川急便の会長が 10 数億円かけて豪華な大神輿を奉納しました。

一の宮神輿は重さ 4.5t で純金 24kg、ダイヤは 7 カラット×１、4 カラット×２、３カラット×４、１カラット 16、ルビー×2,010 個、その他プラチナ、銀、宝石多数使用という物で、大鳥居を入って左に展示されています。

この神輿はお披露目の時に 1 回担がれただけで、重すぎて以後は展示室に飾られたままです。そこで、担げるように一回り小さい二の宮が作られました。

＜深川不動堂＞

成田山 東京別院 深川不動堂は成田山新勝寺の東京別院。

【歴史】

江戸時代のはじめ、市川團十郎が不動明王の登場する芝居を打ったことなどにより、成田山の不動明王を拝観したいという気運が江戸っ子達の間で高まった。これを受けて、元禄 16 年（1703）、**成田不動の「出開帳」**が富岡八幡宮の別当・永代寺で開かれた。これが**深川不動堂**の始まりです。

永代寺は明治維新後、神仏分離令により廃寺となり、旧境内は深川公園となった。しかし不動尊信仰は止むことがなく、明治 11 年に「深川不動堂」として存続することが認められました。境内地は、深川公園の一

部を永久かつ無償で借用することが認められたものです。明治 14 年に本堂が完成。その後本堂は関東大震災・東京大空襲と二度にわたって焼失しましたが、本尊は焼失を免れました。門前にあった塔頭・吉祥院が後に再興され、永代寺となりました。なお、地名「門前仲町」は「永代寺の門前町」という意味なのです。

【境内の諸堂及び仏像】

旧本堂、本堂、内仏殿は中に入れますので、拝観しましょう。

旧本堂

前本堂が東京大空襲で焼失した後、千葉県本埜村（現・印西市）の龍腹寺の堂を移築して本堂としたもので、昭和 25 年に移築が完了、翌年に落慶法要が営まれた。現在は丈八の「おねがい不動尊」が安置されている。

本堂

旧本堂の西側にある外壁に梵字（不動明王真言）を散りばめてある建物、平成 23 年に完成。旧本堂より本尊不動明王像及び脇侍の二童子像、四大明王像を遷座し、護摩供養は新本堂で行われている。

不動明王二童子像・四大明王像（五大明王から不動尊を除く）は江東区指定文化財。

内仏殿　**1 階、2 階、そしてエレベータで 4 階まであがりましょう**

旧本堂裏手にある 4 階建の建物、平成 12 年に完成。**1 階**には澤田政廣作の不動明王立像などの仏像、**2 階**には**四国八十八箇所の巡拝所**などがあり、**4 階**は大日如来を安置する宝蔵大日堂である。4 階の天井画は**中島千波**の作。

深川龍神　入り口を入ってすぐ左

「龍神願い札」に願い事を記入し、龍神さまの前の水鉢の水に浮かべます。願い札が水に溶けるとともに、願い事が龍神さまに届き、願い事が叶えられるといわれています。

深川開運出世稲荷　入り口を入って右

成田山出世稲荷を勧請したもの。

以上